

令和6年度阿賀野市病院事業経営改革審議会

日時：令和7年3月18日（火） 18：30～19：30

場所：阿賀野市役所 1階 第一多目的ホール

出席者：

【外部委員】

本田吉穂（新発田北蒲原医師会阿賀野支部長、本田脳神経外科クリニック）

近藤浩（医療法人潤生会理事長、脳神経センター阿賀野病院長）

渡邊守朗（新潟県立新発田病院事務長）

【内部委員】

西瀧治子（総務部企画財政課長）

【市（事務局）】

吉川麻子（民生部長）

江口教子（健康推進課長）

渡辺達郎（健康推進課長補佐）

清水ひろみ（健康推進課病院管理係長）

高橋美穂（健康推進課病院管理係主事）

傍聴者：0人

会議次第

- (1) 開会
- (2) 民生部長挨拶
委員、事務局自己紹介
- (3) 会議
 - 1) 令和5年度収支状況等について
 - 2) 令和6年度あがの市民病院（指定管理者）決算見込みについて
 - 3) あがの市民病院の経営改革に係る計画について
- (4) その他
- (5) 閉会

会議録

○事務局 阿賀野市病院事業経営改革審議会開催の宣言、及び会議録の公開等の説明と確認。

阿賀野市病院事業経営改革審議会参加への謝辞。

各委員、事務局の自己紹介の依頼。

＝各委員、事務局あいさつ＝

○委員 それでは本日の議長をさせていただきます。

今年度もまたこの時期がやって参りました。診療報酬改定によって、医療関係がかなり今締め付けられており、非常に経営が厳しい状況にある中、あがの市民病院は現病院長の着任以来黒字を守ってこられた。今年度は厳しい状況になるのではないかと考えている。皆様ご審議のほどよろしくお願ひしたい。

では、議事の次第に沿って進める。

次第3、(1) 令和5年度収支状況等について、①から③まで一括して事務局の説明を求める。

なお、事務局の説明が終わった後で委員からご質問やご意見をいただく時間を設けるので、円滑な会議進行のため皆様のご協力をお願いしたい。

○事務局 (1) 令和5年度収支状況等について説明。

○委員 それでは委員からご質問やご意見をお願いいたします。

ないようなので、次第3、(2) 令和6年度あがの市民病院指定管理者決算見込みについて、事務局の説明を求める。

○事務局 (2) 令和6年度あがの市民病院決算見込みについて説明。

○委員 それでは委員からご質問やご意見をお願いいたします。

ないようなので、次第3、(3) あがの市民病院の経営改革に係る計画について、事務局の説明を求める。

○事務局 (3) あがの市民病院の経営改革に係る計画について説明。

○委員 それでは委員からご質問やご意見をお願いいたします。

○委員 目標数値が高すぎたということか。コロナ禍を経て、受診者数が減っている。診療単価については、薬価の改定だったのでどうしようもないのかもしれないが、人口減少が想定以上に進んでいることを考慮せずに、目標設定してしまったという結果だろうか。委員の皆様の病院などでは、人口減少やコロナ禍からの立ち直りについて、どのような状態か。やはり見込みを大きく下回っているような状況か。

○委員 私どもは神経難病を扱う少し特殊な病院であり、周辺医療機関からの紹介で運営してるので、コロナによるそういった影響はない。

あがの市民病院で考えた場合、その病院を利用する周辺人口が減っているのので、受診患者数に影響が出るのは、今の流れの中ではしょうがないように思う。そんな状況の中で、今、病床稼働率がかなり低くなっている。許可病床数が196床であるのに対し、実際に稼働している156床に換算しても80%ぐらいの稼働。何とか底上げすることが大きな目標だとは思いますが、やはり病院の対象患者となる人口が少ない。以前は2025年をピークに、団塊の世代が高齢者になり病床が切迫するとか、そういう議論もされていたが、実際今2025年になって考えると、外来も病棟も余裕がある状況。これからまた高齢者人口が減っていくという次のフェーズに移っていくと、今後あがの市民病院として何床程度で運営していくことが望ましいかの議論が必要になって来るのではないかと。実際に今150床で運営しきれていないというのが実情なので、また感染症の大流行でもない限りは、あまり患者数は伸びないように思う。それを前提にした目標設定というのは、今後必要になるのではないかと考えたりしている。

○委員 県立病院の立場として、委員の方からお願いします。

○委員 県立病院全体としても、コロナ前のように患者数が戻るというのを期待していたが、そこは期待が外れたというところはあると思う。そういう意味では、必ずしも目標数字が高すぎたということではないのではないか。

○委員 いろいろなものが複合的に絡んでいると思うが、数字自体が高すぎたのであれば、やはりここでもう一度、今の話でもあったように、考えなければとも思っている。

○委員 単価の高い医療というのは外科手術とかそういったものやっつけていけばいいのだと思うが、それに見合った医師の配置と、診療科の配置などを考えた場合に、込み入った手術は近隣の基幹病院でやることになるのと、あがの市民病院で単価の高い手術を多くやっっていくというのは現実的ではないのが事実だろうと思う。新潟県全体で人口が減少していき、間もなく200万人を割ろうという事態の中で、あがの市民病院だけ患者が増えるということはまず予想されないだろうし、周辺の病院も含めて、患者減少が進んでいくのだと思う。そういう状況の中で、単価の高い医療を目指して、というのは難しいだろうし、周辺の総合病院との連携をさらに深めて、急性期治療後、或いは手術後の医療を引き受けるため、連携をさらに密にしていくながら現実的な流れではないかと考えている。

○委員 私も同じ考え。もう1つ別の切り口から言うと、先ほどの説明の中で、上位の報酬を取るという話があったが、人の配置や施設上の基準などの縛りが相当厳しくて、取ろうと思っても人が確保できないなど、条件が厳しい。直営の病院であればなんとか人材確保できることもあるかもしれないが、指定管理となると、看護師が必要だと言ったときに確保できるかということもある。今回の診療報酬改定で、額が良くなったところや新たに診療報酬が取れるようになったところもあると思うが、それが持続するかどうかはわからないので、次の改定の際に、果たしてそれを取れるかという、将来的な担保がないという心配もある。そういう意味で言うと、安定的な病院経営を考えたときには、むしろ実態に即して、周辺病院との連携の見直しをしていく方がいいのかと思う。

○委員 拠点病院で高度な医療をやっつけて、周辺病院には2次医療を引き受けるという棲み分けの流れが出来ているため、そういった病院運営が望まれるところだと思う。

○委員 経営強化プランは、病院長はご覧になっていると思うが、他の医局の先生方はこの計画をご存じか。

○事務局 ホームページには掲載しているが、会議等で周知いただけているかどうかは確認していない。

○委員 開業医或いは介護施設からの受け入れや、レスパイト入院を増やす等の目標があるのだから、共有した方がいい。他院からの紹介は取るように対応いただいていると思うが、外来での対応となったケースもあった。家族が付き添いをしなければならず大変なので、入院させてもらえるとありがたかった。

○事務局 病院長、事務長を通してお伝えする。

○委員 プランの数値は、令和7年度から目標数値が入っており、右肩上がりになっている。さっきの会議の内容を踏まえると、右肩上がりでいいのかどうかという点があると思うが、計画はこのままとするか。

○事務局 コロナ禍が終わり、コロナ関連の補助金が今年度からなくなっている状況で、厳しいことは予想していたが、このプランというのが最終的に黒字を出すよ

うな目標を立てなければならぬものであり、病院の方とも相談しながら、現時点ではこのままの目標でいきたいと思っている。

○委員 ほかにご質問やご意見ございませんでしょうか。
では議題の4番その他に関して、委員の皆様、なにかございませんでしょうか。
本日の話をまとめて何かお話ありますでしょうか。
特になければ順番に今日のご感想でもご意見でも結構ですので、述べていただきたい。

○委員 医師も少ない中であがの市民病院は頑張っていると思う。その少ない人的資源の中で少しでも高い点数を取ろうという試みをされていて、診療報酬アップの努力がうかがえる。委員から話があったように、今後はさらに開業医からの要請にスムーズに応えられるような体制を構築していただくと、患者数増加に繋がるのではないか。それから医師数を少なくとも現状の人数から減らしてはいけないと思う。今の病院の医師も、寄附講座で派遣された医師が何人かいると思うが、今この会計には出ていない。

○事務局 一般会計から支出している。

○委員 それは市民の健康のため、いろんな調査や検診の絡みで、市民の健康増進にも繋がっていくのだと思う。しかし医師供給という目的もあると思うので、そういう点で新潟大学等の関係を強固なものとして維持し、医師派遣をこのまま続けていただくことが、今現状の経営を維持する上では一番有効ではないかと思う。新潟県内どこを見ても、若い医師がたくさん入ってくるような状況ではないので、今の診療体制を何とか維持し、医療の向上を図っていただきたい。

○委員 ありがとうございます。

○委員 病院の経営と直接関わるかどうかわからないが、阿賀野市で、あがの市民病院の人間ドックを受けると、3,000円相当の市中で使えるポイントを付与している。これは令和7年度も続ける予定にしておき、あがの市民病院で人間ドックを受けることによって、地域での医療と繋がっている。それから継続的に受けていただくことで、医療費全体を抑制する。もし疾病が見つかったとしてもあがの市民病院を受診できるといったところを促進する目的に開始したが、そのあがのポイントの運営自体が、市中で使える店があまり広がらなかったということもあり、行政ポイントを付与する多くの項目を令和7年度はやめるという決断をせざるを得なくなった。あがの市民病院における3,000ポイントについても、令和7年度1年間で考えていきたいと思います。

病院経営の報告などを受けていると、人間ドックについては、JAの組合員を中心に声をかけて、受診者を増やしましょうという話を伺っており、勢いをつけなければならぬところに少しブレーキをかけてしまうような状況が迫っており、果たして3,000ポイントで継続して受けたいという気持ちを削がないでもらえるのか、それは大事なポイントなのか、私自身もよくわからずにいる。

3,000ポイント以外に、それを上回る魅力があるものに何があったら、あがの市民病院で人間ドックを受け続けてもらえるのか、市民にご理解いただけるものなのかと考えあぐねている部分があり、委員の皆様からヒントをいただければと思っています。

る。

○委員 人間ドックを受けた後、その結果をフィードバックするとともに、例えば、健康を維持・増進するための取り組みができるようにするのはどうか。健康づくりのメニューを提供する、又は、運動ができる施設を阿賀野市で用意するなど、そのような取り組みがあるといいと思う。要するに、健康づくりのきっかけとして、人間ドックを受けてもらえるように、連携が取れる取り組みがいいのではないかと思う。

最近では人間ドック等を受ける必要性は普及されてきていると思うので、金銭的なものよりも、むしろ事後的なフォローアップのほうがインセンティブになるのではないか。

○委員 人間ドックの受診は個人での受け付けだと思うが、企業とタイアップして、団体に受け付けるというのもいいのではないか。

○委員 阿賀野市の企業だが、新潟市で人間ドックを受けている企業もある。そこが何とかならないかと思う。今日もそこで異常を指摘され当院を受診した人がいたが、あがの市民病院を紹介した。あがの市民病院で人間ドックを受診すれば、何か見つかってそのままあがの市民病院を受診できるのだが。

○委員 あがの市民病院にはそういったところの営業を強化していただくことが必要か。

○委員 健診センターに余裕があればの話だが。

○委員 余裕があるから、JA組合員に声をかけるという策に出るのだと思うので、おそらくキャパはあるという認識でいる。

○委員 なぜ新潟市の人間ドックを選ぶのかを調査しないと、例えば少し安いとか、どんなメリットがあってそちらを利用するのかがわからないと、対策の立てようはない。

○委員 先ほど話が合ったように、個人に声をかけるよりは、集団で受けてもらえるような企業に声をかけた方が効率がいい。

○委員 他の医療機関の人間ドック部門も、いかに顧客を増やすかを常に考えていて議題に上る。これは阿賀野市としても考えた方がいい。

○委員 3,000ポイントをメニューとして打ち切っているのか、もしくはその財源を、今話をいただいたところに振り向けて、まずは受診者を増やしたところで、また次の方策なのかと考えていたので、ありがとうございました。

○委員 これも病院の経営と直接関わる場所ではないかもしれないが、病院から人材が不足していると聞く。医者はもちろんのこと看護師も、看護助手も含めて少ないと伺ったことがある。阿賀野市で、奨学金を受けた方が阿賀野市に戻ってきた場合、いくらか補助しますといった制度を行っており、令和7年度からはさらに手法を変えて、より受け取りやすくなるような形を考え、こちらに住み続けられるようにバージョンアップしたところ。ただ、この不足している医療従事者という職種に限った場合、若干プラスするのはどうか。例えば、阿賀野市に住んでいて、阿賀野市の病院、または病院でないところに勤めても、地域の医療人材として戻ってきた場合に加点するとか、そういった方法をとった場合、もしかしたら委員の皆様のところにもお勤めいただけるような人材を派遣できると思っているが、そういったことについて、有効だとか、非常に効果があるという話を聞いたことはあるか。

○委員 県立は全県での異動があること、それから採用試験を受け、通らなければ

ならないというところがある。どの程度効果があるかというのはわからないが、ただ、それぞれの地域でそういう人材を供給していただければ、私どもとするとありがたい。

○委員 県立病院も人材確保が難しい状況になってきていると聞く。

○委員 地域別採用ということで、例えば特定の地域に配置するという地域別の対応もしているが、なかなか手が上がらないのが実態。市町村と一緒に支援をしてくださるような、そういう政策をとっていただければありがたいと思う。

○委員 そもそも財源があるかという問題もあるので、必ずしも実現が可能だという話ではないが、将来的に考えていかなければならないと思ひ、委員の皆様のご意見を伺えればと思ひている。

○委員 そのような政策はありがたいと思う。私どもの病院でも看護師不足には頭を悩ませており、紹介会社などをあたって何とかしのいでいるというのが実情。そのような政策が市の事業としてあれば、非常に人材を集めやすくなると思う。阿賀野市内に通勤可能な人口が少ないので、その中に医療従事者がどれだけいるのかというと、新潟市内の病院、医療施設等の奪い合いになることが予想されるし、近隣から通勤できるような医療従事者確保のために、市として支援するというのであれば、ありがたいと思う。

○委員 ありがとうございます。

○委員 県立病院とあがの市民病院が抱える課題は同じだと思ひていて、お互い知恵を出しながら、良い経営をしていかなければと思ひている。この機会も我々とする勉強できる非常に良い機会になっているし、逆に我々の方でも何かお手伝いできることがあれば、情報提供させていただきたいと思ひている。あがの市民病院は県立病院も関係する大切な病院でもあるので、お互い連携しながら進めていただければと思ひているので、今後もよろしくお願ひしたい。

○委員 ありがとうございます。ここで会議の議題は終わりましたので、事務局の方に返したいと思ひます。ありがとうございます。

○事務局 閉会の挨拶を依頼。

○委員 あがの市民病院は市内唯一の総合病院。なくてはならない病院なので、何とか維持していく必要がある。先ほどの人間ドックの話や、開業医からの紹介の問題などを含め、市民が利用しやすい環境整備を進め、市民に愛される病院として発展していただきたい。ここでの議論が少しでも役立てばと思ひます。本日はありがとうございます。

○事務局 ありがとうございます。これにて本日の日程は終了となります。皆様、本日はお忙しい中、ありがとうございます。